



JSCA千葉ニュース(春)

発行 一般社団法人 日本建築構造技術者協会 JSCA千葉(広報・会員委員会)
〒260-0045 千葉市中央区弁天2-16-18 (有)市原建築構造設計事務所 内 TEL043-225-2181 FAX043-252-6174

JSCA千葉 平成31年 新年会 記念講演会

JSCA千葉(広報・会員委員会)

【JSCA千葉 平成31年 新年会記念講演会】

平成31年2月4日(月)午後3時より三井ガーデンホテル千葉にて、JSCA千葉平成31年新年会記念講演会が、開催されました。講演会はJSCA千葉 栗田役員の総司会により進行され、JSCA千葉 市原代表の挨拶から始まり、JSCA千葉 加藤役員の講師紹介へと進み講演会が始まりました。

【市原代表の挨拶】

大阪市立小学校のブロック塀の倒壊、北海道胆振地方での地震では北海道全域が停電する「ブラックアウト」を初めて経験し、台風による高潮で国際空港が浸水するなど自然の驚異を目の当たりにするなど最近では地震そのものによる建物の損壊だけではなく災害があることを知らされるようになってきました。

今日の記念講演はまさに最近の自然災害に対して「斗うのはやめよう」というタイトルを見ても興味がわく内容を想像させられます。

和田先生の講演を楽しく聞かせていただきましょう。

【加藤役員の講師紹介】

本日は「戦う」ではなく「斗う」という興味のある話題です。講師の和田章先生は、東京工業大学名誉教授だけではなく、一般社団法人 日本免震構造協会会長・NPO法人 建築技術支援協会 代表理事を務められるなど第一線でご活躍されるお忙しい

先生であります、講演を依頼したところ快く講演をお引き受け下さいました。

演題の「斗う」にこだわられ、お聞きするのが楽しみです。それでは講演をよろしくお願いたします。



JSCA千葉 市原代表



JSCA千葉 加藤役員

【講演会】

「自然と斗うのはやめよう」(和田章先生)

和田先生の講演は、おっしゃりたいことの全容を示すのではなく、建物・自然・現象・事実を並行して話されていて、聞く者の経験値によって大体の雰囲気を感じるように感じたので、聞いたまますを文章にしてみる。

広島雨による土砂崩れを機会に、「自然と斗うのはやめよう」というタイトルを昨年から利用している。

渋谷駅に計画中の建物は東日本大震災の前の計画通りで進めようとしているから大きい建物を造るのはやめようと言ってみた。歌舞伎座の上に超高層を造っていいのかなとも思った。一つの基準を満たすだけでは社会全体が安全とは言えないから、黄色本はやめた方がよい。

日建設計で設計を10年経験したから分かるが内部だけで



講習風景



講師 和田章先生

話していると別の部門が分からなくなる。

横浜駅西口の開発は2010年発表よりも2011年以降の設計変更は低層になり良くなったと思う。

1895年の濃尾地震ではイギリス技師の橋が崩落した。

1995年阪神淡路大震災で日本の規準でもダメだった。

混雑する町の中にアペノハルカス300mは異常。

江戸時代のように各地に主要都市を造るべき。

(時間調整のため1名だけ質疑応答、質問者は楠川役員)

経済性を考えると2000%の地域に500%は建てられない災害時にはスマホが100%使えるようにすべき。

大地震時に机の下はダメ、外に逃げるような建物もダメ命を救うだけでは不足。壊れない車と建物を造ろう。

津波の来る場所に住宅を建てるのは (2面につづく)